

# 米国の会計基準の動向

## 1. 米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者へのインタビュー

7



左からクリスティーン・ボトサン氏、ラッセル・ゴールデン氏、川西安喜

FASB 議長 ラッセル・ゴールデン

FASB 理事 クリスティーン・ボトサン

[インタビュアー] ASBJ 常勤委員 かわにし やすのぶ 川西 安喜

## 2. 米国財務会計基準審議会（FASB）との第 23 回定期協議の概要

13

ASBJ 専門研究員 やまぐち なみ 山口 奈美

## 3. 2017 年米国公認会計士協会（AICPA）年次全国大会報告

15

ASBJ 専門研究員 しまだ ようこ 島田 謡子

ASBJ 専門研究員 やまね ゆういち 山根 雄一

# 米国財務会計基準審議会 (FASB) の代表者へのインタビュー

## はじめに

**川 西** 2018年1月31日及び2月1日に東京で開催される米国財務会計基準審議会 (FASB) と企業会計基準委員会 (ASBJ) による第23回の二者間会議のため、FASBのラッセル・ゴールデン議長とクリスティーン・ボトサン理事が来日されました。この機会を利用して、お2人に2017年のFASBの活動を振り返るとともに、2018年のFASBの優先事項について語っていただきたいと思います。ゴールデンさん、ボトサンさん、このインタビューに時間を割いていただきありがとうございます。

**ゴールデン** こちらこそありがとうございます。FASBはASBJとの長期にわたる建設的な関係の評価しており、ご質問に喜んでお答えしたいと思います。

**ボトサン** 私もです。FASBの活動について読者の皆様に最新情報をお伝えできる機会をありがたく思っています。

## 2017年を振り返って

**川 西** まず、2017年のFASBの活動をどのように評価されているのかをお話しいただけますでしょうか。

**ゴールデン** 我々が公表した会計基準の導入・適用が、2017年のFASBの優先事項でした。これは2018年もその先も引き続き優先事項となるでしょう。

会計基準の導入・適用が適切に行われることが、その会計基準を開発するプロジェクトの全体的な成功にとって不可欠であると考えています。世界で最も優れた会計基準であっても、作成者、監査人、利用者がこれを合理的に導入・適用して理解することができないのであれば、財務報告を改善するものとはなりません。FASBでは、長年にわたり、利害関係者による基準の導入・適用を手助けするためのさまざまなリソースを開発し、洗練させてきました。そのようなリソースには、導入・適用の現状と問題に関する公開のボード会議、FASBの教育ウェブセミナー、専門家が集うコンファレンスにおける教育とアウトリーチ、実績のあるCPE提供業者にコンテンツとトレーニングを提供するプログラム、利害関係者がFASBの専門家に対して直接質問することができる技術的な問合せのサービス、FASBの常設の諮問グループやリエゾン・グループとの定期的な会合におけるアジェンダ項目、それに、幅広い関係者に重大な影響を与えるプロジェクトについての移行リソース・グループ (TRG) などがあります。

利害関係者の多くが現在、導入・適用の過程

にある、収益認識、信用損失、リース及びヘッジの会計基準について、我々はこれらの全部又は大部分を利用してきました。

**ボトサン** 新しい収益認識基準が財務諸表に与える影響についての投資家その他の利用者の教育に、先を見越して取り組んできました。昨年、FASBのマーク・シーゲル理事が一連の投資家向けのウェブセミナーを始めました。さまざまな業界への収益認識基準の影響に焦点を当てたものです。信用損失、リース、ヘッジの会計基準についても同様のことを計画しています。

また、ゴールデン議長が述べた他のリソースも有用なリソースですが、ごく最近まで、FASBのウェブサイトのあちこちに散在していて、検索するのが困難でした。これを解決するため、新しい主要な会計基準のそれぞれについて、適用上のリソースのすべてをまとめた導入・適用ウェブ・ポータルを作りました。

**川西** 信用損失の基準に関する取り組みについてお話しいただけますでしょうか。

**ゴールデン** 我々は、すべてのプロジェクトについて、利害関係者が提出した技術的な質問

に対処しています。信用損失に関しては、利害関係者は我々が変更を行った内容に関して質問してきています。

利害関係者は、信用損失の基準がどのように監査されるのか、また、自己資本に関する要求事項にどのような影響が生じる可能性があるのかについて、懸念を示しています。表面化している論点について議論するため、米国の規制当局（銀行規制当局を含む。）との会合を継続しています。我々が受けた質問と、それらの質問への回答について、これらの当局と共有して、会計基準の解釈がFASBの意図と合致することを確保するようにしています。また、FASBのスタッフが、信用損失に関して定期的に検査官に向けた研修を実施しています。FASBは、円滑かつ適時に採用されるようにするため、米国証券取引委員会（SEC）、米国公開会社会計監視委員会（PCAOB）、及び銀行規制当局との作業を継続することを約束しています。

**川西** リース基準についてはいかがでしょうか。

**ボトサン** 新しいリース基準に関する導入・適用上の論点について、先を見越して対処してきました。2017年11月に、コストを削減することが見込まれるいくつかの変更について、投資家に提供される情報の品質を損なうことなく進めることを議決しました。

その会議で、FASBのスタッフに会計基準更新書案の文案作成を指示しました。経過措置を簡素化し、貸手について、特定の条件の下で、非リース構成要素とリース構成要素を分離しない実務上の便法を設けるものです。

また、地役権（いわゆる通行権）についての借手の移行コストを削減する最終基準を公表することも議決しました。地役権は、他の企業の土地を特定の目的で使用、アクセス又は横断する権利を表すものです。こうした変更により、我々のリース基準が適時に採用されるようにす



FASB 議長 ラッセル・ゴールデン氏

るのに役立つと考えています。

これらは、最終基準が公表された後であっても利害関係者と継続的に関わっていくことの重要性を示す好例です。利害関係者が会計基準を導入・適用する助けとなるとともに、将来の会計基準の開発のための情報を得るのに役立ちます。

**川 西** ヘッジ会計の基準についてお話しただけですでしょうか。

**ゴールドデン** もちろんです。ヘッジ会計についてお話しする前に、無用の複雑性とコストの軽減について少しお話ししたいと思います。コストや複雑性を軽減するための我々の取り組みを、投資家に提供される情報の質を犠牲にするものと見る向きもあることは承知しています。しかし、私は、その逆が正しいと考えています。不必要なコストや複雑性は、財務諸表利用者も含めて、金融システムの中のすべての人にとって、品質を低下させるものと考えています。

実際、自分たちが投資している会社に不必要なコストをかけてほしいという投資家には、一人もお目にかかったことがありません。作成者にはそれを処理するための時間やリソースがありませんし、処理しなければならないようにすべきではありません。

この無用の複雑性とコストの軽減が、ヘッジ会計の基準の見直しの原動力であり、これは利害関係者から非常に好意的に受け取られています。8月に公表したこの会計基準は、金融リスクと商品リスクの両方について、ヘッジ会計を洗練させ、拡張しています。また、財務諸表本体と注記の両方において、投資家とアナリストのために、経済的な結果をより透明性の高い形で表示します。

ヘッジ会計の基準は、これまでで一番、全員を幸福にすることに近づいたものだと思います。企業も投資家も同様にこの会計基準を強く

支持しています。実際、多くの会社がこの会計基準を早期適用することを決定しています。

## 継続的な改善の重要性

**川 西** 私の記憶が正しければ、ゴールドデン議長は、何度か、会計基準の継続的な改善が非常に重要であると発言されています。

**ゴールドデン** そのとおりです。FASBにおいて、継続的な改善は我々のプロセスの礎となるものです。利害関係者がすでに公表されている会計基準を導入・適用するのを手助けすることに関心を向けること、また、投資家により多くのより良い情報を提供しつつ、作成者と監査人がコストと不確実性を減らすことをどのように手助けできるのかを検討することが重要だと考えています。

我々はこれを会計基準の開発における「カイゼン」アプローチだと考えています。根本的な変更ではなく、継続的な、少しずつの改善のプロセスです。

継続的な改善とは、会計基準がより良い情報



FASB 理事 クリスティーン・ボトサン氏

を投資家に適切な時期に提供するようにすることを意味します。利害関係者を教育し、不確実性を減らすために、会計基準を公表した際に「FASBが何を意図していたのか」を明らかにすることを意味します。また、会計基準を導入・適用するためのコストをより適切に理解するためにプロセス全体を通して利害関係者と継続的に意思疎通することを意味します。これは、より適切な意思決定を行うのに役立ちます。また、こうすることによって、我々は利害関係者全員の便益となると信じています。

**川西** 会計基準の継続的な改善は、アジェンダの決定にも影響を与えるのでしょうか。

**ボトサン** 全くそのとおりです。2016年に、潜在的な財務報告の論点のリストを示したコメント募集を公表し、利害関係者に、どのような論点を優先事項と考えているのか評価するよう求めました。また、それらの論点は会計基準の開発を通じて対処すべき問題なのかどうか、その場合の考えられる道筋についても利害関係者に意見を求めました。

これをアジェンダ協議プロセスの一環として行ったのは最初のことであり、多くの価値ある

フィードバックが寄せられました。昨年9月に、FASBは、どのプロジェクトをアジェンダに追加すべきかについての最終的な意思決定をしました。

第1に、負債と資本の区別に関するプロジェクトを追加しました。これは、財務諸表利用者に提供される情報の目的適合性を犠牲にすることなく、理解可能性を向上させ、複雑性を軽減するものであり、焦点をインデクセーションと決済、転換社債、開示、1株当たり利益に当てます。

第2に、FASBの財務業績の報告に関するリサーチ・プロジェクトに1つの要素を追加しました。財務業績の報告における機能別と性別別の分解に焦点を当てるものです。

また、第3に、セグメント報告に関する狭い範囲のプロジェクトを追加しました。集約規準とセグメント開示の改善を意図したものです。財務業績の報告とセグメントについての作業が完了すれば、投資家は公開会社の営業活動について、より透明性の高い情報を得ることができるはずです。

これらの論点を選択したのは、いくつかの理由があります。1つ目として、さまざまな利害関係者によって優先事項として識別されたからです。2つ目として、指摘された論点に基準設定の解決策を通じてうまく対処できるとFASBが考えたからです。また、3つ目として、我々がこれらを既存のリソースで完成できるからです。

**ゴールデン** とはいえ、いくつかのプロジェクトをアジェンダに追加しないことも決定しました。

いくつかの論点が生き残らなかった理由は何でしょうか。どの論点も財務会計の改善となる可能性はあったのですが、いくつかのケースでは、目に見える解決策がありませんでした。また、単に優先度が高くなかったということもあ



ASBJ 常勤委員 川西 安喜

りました。

我々は現実的なのです。すべての論点に十分に対処するために必要となる、無制限のリソースがあるわけではないことを承知しています。これには時間というリソースも含まれます。また、コメント募集に対する回答によれば、利害関係者のリソースも無制限ではありません。一度に導入・適用できる基準の数にも限りがあります。

我々の使命の1つは、新基準への円滑な移行のためにリソースを配置することです。これには、困難であったとしても、選択を行わなければならないことを意味します。変化のペースの管理を、プロセスの最後になってからではなく、最初から管理することによって改善しようと懸命に努力しています。

## 2018年の優先事項

**川 西** それでは2018年のFASBの優先事項をご説明いただけますでしょうか。

**ゴールデン** 2018年の我々の第1の優先事項は、会計基準の導入・適用のための取組みをモニターし、これを支援することになるでしょう。第2の優先事項は、アジェンダにあるもう1つの重要プロジェクトの完成になるでしょう。それは長期の保険契約の会計処理を改善するものです。

このプロジェクトは、利害関係者に対するアウトリーチが、会計基準を適用することのコストと便益をより適切に理解すること、さらに、FASBとしてより適切な意思決定を行うことに、どのように役立つのかという、もう1つの好例を示しています。

10年前に、国際会計基準審議会（IASB）との作業の一環として、生命保険や年金などの長期の商品を有する生命保険会社が使用する会計

モデルの全面的な見直しを検討しました。

しかし、広範なりサーチ及びアウトリーチの結果、全面的な見直しはやめて、既存の保険モデルの的を絞った改善に向かうことにしました。この領域での再審議は相当に進んでおり、最終基準を本年中に公表することを目指しています。

**ボトサン** 2018年には、開示フレームワークのプロジェクトに関する作業を完了させることも見込んでいます。FASBの意思決定プロセスに関する決定を最終的に確定させる予定であり、これは、当該フレームワークが開示要求に関してのFASBの首尾一貫した決定を促進するとともに、報告企業が開示に関する決定を行う際の手引きにもなります。

また、確定給付制度、公正価値測定、政府援助、法人所得税、棚卸資産の開示に関するトピック別の開示の見直しについて再審議する予定です。

最後に、会計基準の簡素化と概念フレームワークのプロジェクトにおいてさらに前進したいと考えています。

## むすびに代えて

**川 西** そろそろ予定の時間になりそうです。ゴールデン議長、ボトサン理事、読者に一言いただけますでしょうか。

**ゴールデン** 会計基準設定主体として、我々は、可能な限り最善の意思決定を行うために利害関係者からのインプットに依拠しています。読者の皆様が、ASBJとFASBの基準をプロセス全体にわたりフォローし、意見を提供されることを推奨いたします。

**ボトサン** ゴールデン議長のコメントを繰り返したいと思います。かつて研究者だった者として、学界が基準設定プロセスに引き続き関与

することも推奨したいと思います。最近、リサーチ・アジェンダについて、各リサーチ・プロジェクトの目的も含め、更新しました。研究者の方々が、将来、会計基準の開発が行われる可能性があるトピックについて我々と研究成果を共有することを歓迎し、推奨します。

**川 西** ゴールデン議長、ボトサン理事、誠にありがとうございました。以上をもちまして、インタビューを終了したいと思います。

(このインタビューは、2018年1月31日に実施された。)